



この通信は、高島町在宅医療・介護連携推進協議会（以下「協議会」）における在宅医療と介護の連携状況を随時お伝えするものです。

## 医師部会を開催しました！

11月11日（月）午後7時から、げんき館において医師部会を開催しました。



（門脇先生の座長で進行）

協議では、事務局より今年度の協議会事業の進捗状況の報告があり、続いて各専門部会から活動状況が報告されました。

- ①看護介護部会 … 寒河江部会長
- ②調剤薬局部会 … 島崎部会長
- ③歯科医師部会 … 桜井部会長

続いて、「在宅医療・介護連携における医師間連携」について検討されました。医師間連携については、看取りの実例を検証しながら、訪問看護ステーションが主体となって具体的ケースを対応してみることの提案でありました。先生方からは、看取りの現状や患者死亡時の対応などの事例が紹介され、夜間、休日の対応が課題であるとの意見が出されました。このことから課題となる主治医、副主治医制について、米沢市などの先進事例を調査して、同一疾病に複数の医師が関わることの是非や診療報酬の制約などを調査することとなりました。

また、訪問看護ステーションの24時間対応が周知不足だったこともご指摘いただきました。

最後に、次年度事業としてケアマネージャーとの

意見交換会を開催することを決定し、閉会しました。

各先生方には、大変お忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございました。

## 「訪問歯科診療の実践について」

### 講演会を開催しました！

11月21日（木）午後7時から、げんき館において在宅医療・介護連携研修会を開催しました。

この研修会は、歯科医師部会が主催し、南陽市東置賜郡歯科医師会が共催し、東京都世田谷区の百瀬歯科医院で訪問歯科診療を実践していらっしゃる岡澤先生をお招きしてご講演いただきました。



（岡澤先生の講演会）

講演は、最初に日本における高齢者の実態と今後の高齢化率の推移の話から、今後、在宅療養高齢者は増加していくとの説明がありました。

そして、高齢者の増加に伴い、訪問歯科診療が重要になってくる疾患が多々あり、口腔ケアや歯科診療が重要であること。特に、近年の死亡率の推移では、原因の上位に肺炎による死亡が増えて、その原因が、嚥下障害によるものであること。そして、口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に大変重要であるとの説明がありました。

最後に、サルコペニアとフレイルのお話では、加齢とともに筋肉量が減少し、「虚弱」、「老衰」、「脆弱」が進むと言われ、口腔機能低下症から全身的な機能低下につながるというお話がありました。

研修会には、南陽市東置賜郡歯科医師会の先生方も参加いただき、時間が超過するほどの盛況でありました。岡澤先生ありがとうございました。

## 町民啓発講座「人生の終い方パートII」開催 二井宿地区、亀岡地区

町民対象啓発講座は、今年度、二井宿と亀岡地区で実施し、町内6地区の最終となりました。



(講師の山形大学医学部の先生方)

参加者は、二井宿地区25名(内男性3名)亀岡地区21名(内男性9名)でありました。

「人生の最期の時をどう生きるか」のキーワードから、腫瘍内科医師が「がん患者と向き合っていることを参加者と一緒に考えていく講座を実施しました。

講座に先立ち、ご講演をいただきました。

- ① 演題「自分らしい生活・人生の幸福とは何か」  
前山形大学医学部腫瘍内科医師 中村翔先生
- ② 演題「最期を迎えるための準備」  
山形大学医学部腫瘍内科医師 渡邊 要先生
- ③ 演題「最後までより良く生きるための選択は」  
山形大学医学部社会福祉士 五十嵐絵美先生

講座では、人生の時間が限られていると伝えられた時、「やっておきたいこと」「後悔することは何か」「最期の場所としてどんな場所を選ぶか」を参加者と考え、その意思を家族へ伝える大切さをACP(人生会議)の視点も踏まえてお伝えしました。

参加者からも、「終活」の言葉は聞いていたが、「これからの人生どう生きるか」を改めて考えさせられ

ました。そして、自分らしく生きるための目標をもつことの大切さを痛感し、大変有意義な研修だったとの声が寄せられました。先生方、大変ありがとうございました。

## 「看護・介護部会」研修会の開催!

看護介護部会は、12月11日(水)午後6時から、げんき館において研修会開催しました。

《研修会の内容》

- ① 講話「高齢者の救急搬送の実態について」  
高畠消防署 渡邊係長
- ② 研修会 グループワークで検討  
「高齢者の救急搬送における連携」  
看護師とケアマネを7グループに分けて検討してもらい、グループごとに発表しました。

《グループの発表内容》

- ① つながる安心ノートの利活用
  - ② 退院サマリーの見直しで有効利用
  - ③ 訪看の24時間対応充実
  - ④ ACPの普及と終活ノートの利活用
- ・グループごとに活発な意見があり、高齢者の救急搬送時の連携の在り方を再確認し、有効な事例を共有することができました。



(グループワーク)

## 編集後記

つながる通信もお陰様で第6号を数えました。地域包括ケアシステムの中でも大変重要な役割を担う「在宅医療・介護連携」の仕組みづくりは、多職種専門職が一堂に会して積み上げてきた高畠町独自のスタイルであります。町民主役の地域包括ケアシステム構築のため、今後とも、関係各位のご協力をよろしくお願いいたします。